

# シティプラザ運営委員会が初会合 収支と市民満足度 有識者が論議

久留米市は、「久留米シティプラザ運営委員会」を設置。運営のあり方や収支の改善を、有識者が議論します。初会合が7月31日に開かれました。

## 検証の3年目

久留米シティプラザは、平成28年4月に開館しました。久留米では鑑賞できなかった一流の楽団の公演や人気の舞台などが実現。国際的な学会などの開催数も倍増し、これまでに120万人以上が来館しました。

一方、運営上の課題も見えてきました。昨年度は、施設使用料やチケット販売など1億4000万円の収入に対し、支出は運営・管理費や人件費など8億5000万円で、7億1000万円の赤字。今後の施設改修や設備更新の費用を加味すると約10億円に上ります。

同プラザは公共施設なので、収支の差が文化芸術の振興やにぎわいづくりの費用といえます。しかし、その額が適当か、効果的な運営はできているのか、これまで庁内プロジェクトで議論してきました。続いて設置したのが同委員会です。

## 料金や予約ルールを検討

委員は10人。企業経営や劇場運営、文化芸術などの有識者が構成されます。

初会合で、大久保勉市長は「必ずしも黒字にしようとは思っていません。市民の皆さんが、支出額に見合

うと納得できる使い方を検討してほしい」とあいさつしました。その後、事務局が、収支の状況や優先事業の選定方法、施設ごとの稼働率などを説明。委員からは、「経済波及効果など、総体的に考えるべき」「収支を改善しないと長続きしない」「直営期間後の体制も考える時期では」などの意見が出されました。

最後に、今後の検討項目を、料金のあり方や高収益の催事の誘致、利用調整のルール作りなどとすることを確認。結果を市長に助言し、運営に生かします。

久留米シティプラザ総務課（☎0942・36・3081、FAX0942・36・3087）



会合の冒頭であいさつする大久保市長

## 久留米シティプラザ運営委員会 委員名簿

所属	氏名
筑邦銀行 代表取締役頭取	佐藤清一郎（委員長）
久留米商工会議所 副会頭	森光栄一
TKコンサルティング 代表取締役社長	桑野隆裕
久留米連合文化会 会長	木村清吾（副委員長）
市校区まちづくり連絡協議会 理事	別府弥生
久留米大学 理事	有馬彰博
市教育委員会 教育長	大津秀明
RKB 毎日放送 ラジオ局長	安田瑞代
西日本新聞社 久留米総局長	中西昌人
市文化芸術担当部長	宮原義治



議題に入る前にシティプラザ内を視察する委員の皆さん。ザ・グランドホールのステージ上で舞台装置などの説明を受けました

## 市収蔵資料展

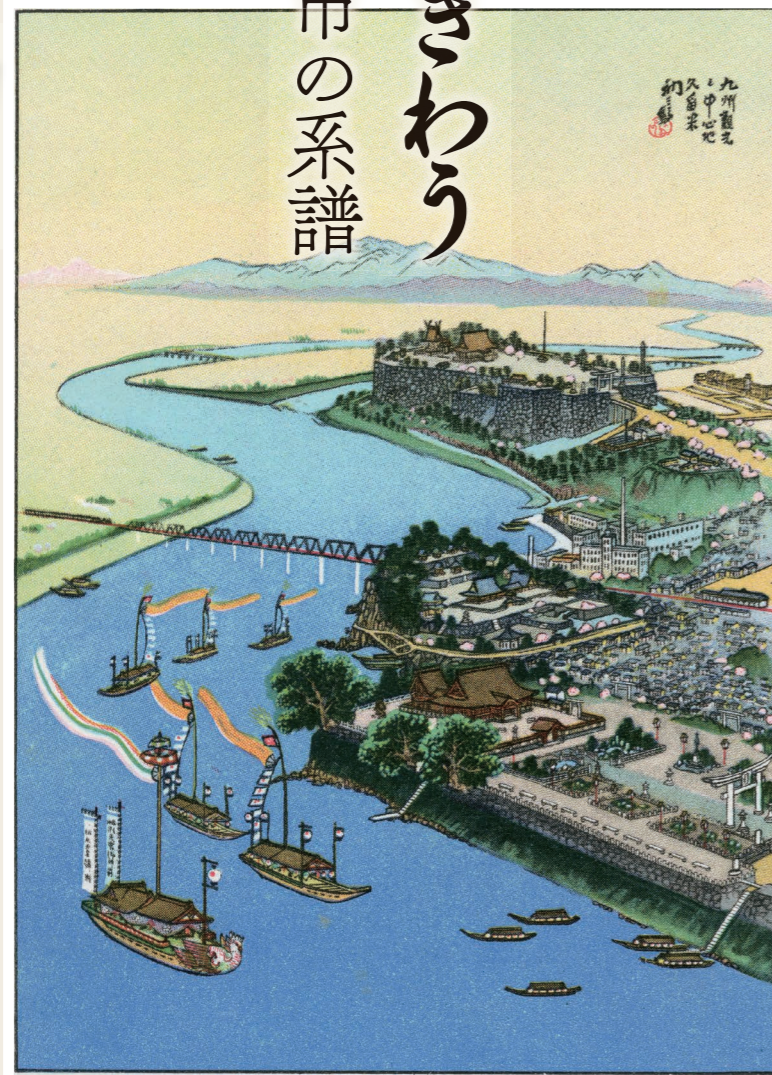
# 行きかうにぎわう

## 交流拠点都市の系譜

久留米は、古くから、経済や文化の交流拠点として発展してきました。長い歴史とともに生み出され、残されてきた歴史資料を紹介する企画展を、8月25日(土)から久留米シティプラザ展示室で開催します。

## 古代から続く歴史

久留米市は、北部九州の中央で東西南北をつなぐ陸路の結節点にあります。また、九州一の規模を誇る筑後川もあり、陸路や水路を使って、多くの人や物が



▲絵はがき「水天宮・梅林寺・篠山城址（じょうし）図絵」（昭和10年）



▶プリチヤストン広告（昭和8年）



◀小銅鐸（どうたく）（弥生時代）

き交い、久留米は文化や経済の交流拠点として発展してきました。この歴史の流れは古代から始まり、現代まで連続と続いています。文化や交通の重要な拠点という立地条件の中で、数千年という長い年月を経て、久留米は現在の都市の姿になったのです。

## ポスターなど幅広く

企画展は、「陸の道、河川の道」「行きかう、モノ・人・文化」「都市のあゆみ」をキーワードに、絵画や写真、当時のポスターなど、さまざまな歴史資料を紹介いたします。

## 関連イベント

- 【からくり人形の実演】  
日時 8月25日(土)、9月2日(日) 14時～14時20分  
会場 久留米シティプラザ展示室1 内容 田中久重作「文字書き人形」の実演
- 文化財保護課（☎0942・30・9322、FAX0942・30・9714）



▲久大線大分駅汽車発着時刻表（昭和9年）



▶筑後国跡出土 円面碗（すずり）（9世紀）



▶東野亭焼（江戸時代）



▶文字書き人形（江戸時代）